



NO
WAR



園通信 令和8年4月1日 第1号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

咲き始めた桜がやっと八部咲きになり、私たちの目を通して心を躍らせてくれるようです。

新しい年度が始まりました。令和8年度は「和顔愛語(わげんあいご)」に加え、「ぬくもり」をテーマに、保育者は園児一人一人の安全な基地となり、自主性と思いやりを育ててまいります。

さて、この園通信の名前は、「あいご」です。この「あいご」とは、前述したキッドワールドの保育理念「和顔愛語」からとった言葉で、いとしい語り、つまり、こどもに対して愛情をこめて優しく語りかける、といった意味合いがあります。職員一同、園児一人一人に対して愛情をこめて語りかけ、一人一人が今を最も良く生き、それぞれのこどもが輝く存在になるよう育てていきたいと思っております。保護者の皆様へは、安心と満足、そして子育ての喜びを共有できるよう、職員一同教育・保育に励んで参ります。一年間、どうぞよろしく願い申し上げます。



<4月の予定および年間行事予定について>

月	日	曜日	内容
4月	10日	金	進級式、お見知り式
	13日	～	身体計測週間(3歳以上児)
	18日	土	親子お見知り遠足(お弁当日)
	20日	～	身体計測週間(3歳未満児)
	24日	金	誕生会
	28日	火	健康診断

年間の行事予定については、左下の表のとおりです。日程が決まっているものについては、都合により変更することがあります。その場合には、決まり次第速やかにお知らせするようにいたします。

<健康診断について>

毎月、学校医による健康診断(内科健診)をしています。お子さんの心身の発達面でご相談のある方はお知らせください。

<おたより(通信)等の文書の配布について>

文書の配布は「はいチーズ!ノート」を用いて電子媒体で配信しています。紙媒体での配布希望の方は担任へお伝えください。

<園への連絡について>

欠席や遅刻の連絡は、「はいチーズ!ノート」が便利ですのご利用ください。また、直接の電話(097-569-8600)でも受け付けています。

また、当園から、保護者の皆様へ連絡をするときは、園の携帯(090-5476-8600)から連絡をいたします。ご承知おきください。

<新任者について>

4月1日付で当こども園に配属されました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

- ・ 保育教諭1名
- ・ 調理員1名
- ・ 保育補助員1名

月	日	(曜日)	内容
5月	中旬		歯科検診、聴力検査
6月	13日	土	保育参観(3歳以上児)
7月	1日	水	プール開き
	7日	火	七夕集会
	11日	土	保育参観(3歳未満児)
8月	3～7日		保護者保育体験
9月	4日	金	プール納め
	中旬		視力検査
10月	中旬		歯科検診
11月	14日	土	運動会
	15日	日	運動会予備日
			年長児思い出ツアー(未定)
	11/30～12/4		保護者保育体験
12月	25日	金	クリスマス会
	28日	月	年おわり式
1月	4日	月	年はじめ式
	8日	金	かるた大会
	中旬		腎臓検診(尿検査)
	23日	土	生活発表会(3歳以上児)
2月	3日	水	まめまき
	13日	土	生活発表会(3歳未満児)
3月	中旬		おわかれ会
	20日	土	卒園式
	31日	水	おわり(修了)式

キッドワールドセカンドこども園の基本理念「和顔愛語」のもと、教育・保育目標を立てています。

1. 基本理念「和顔愛語」…あたたかな表情とやさしい語りかけでお子さんに関わっていきます。
 2. 年間テーマ……「ぬくもり」:あたたかな愛情をもって園児と保護者に接し、関心を高め、好奇心を育みます。そして好奇心をもって関わる園児に余計な手を出さず、しっかり見守ることによって自分で考える力を育みます。
 3. 教育・保育目標
 - ① より良い環境の中で、一人一人のこどもが自主性を持ち、思いやりのある人間に成長するように配慮して保育を行う。【優しいこども】
 - ② こどもが自ら興味を示し、好奇心を満たすことが出来るように配慮して保育を行う。【好奇心豊かなこども】
 - ③ こどもたち一人一人の発想や意欲を大切にし、自ら学ぶことのできる自立したこどもを育てる。【自分から取り組むこども】
 - ④ 食への興味を高めることで、楽しく食事ができるこどもを育てる。【食事を楽しめるこども】
 - ⑤ 自らの健康や安全に対して、関心が持てるこどもを育てる。【元気なこども】
 - ⑥ 様々な経験を積み重ねていく中で、危険を予測し回避する力が身につくこどもを育てる。【自分を守ろうとするこども】
- ※ キッドワールドセカンドこども園では、園生活を過ごす中で①～⑥までの育てたいこども像を立てています。

さて、令和8年度の取り組みについて保護者の皆様にお伝えいたします。

- (1) きょうだいのような関係がもてる異年齢交流
計画的な異年齢交流の場や散歩などの園外活動を通して、異年齢児との関わりが深まるような関係を築いていけるようにする。また、生活を共に過ごすことで、身の回りのことや食事マナーが自然と身につくようにする。
- (2) 地域に求められるこども園づくり
様々な家庭の就労や暮らしを支えるための0歳児保育の実施、延長保育、産前産後休暇明け保育、特別支援教育・保育の実施、一時預かり保育事業(一般型、幼稚園型)、親子お見知り遠足や保護者保育体験などでの保護者との信頼関係の構築し、子育てサロンを実施する。
- (3) 安心して子育てができる街づくり
保護者、保育者、ボランティア、地域との連携で、ともに成長し、支え合える街づくりを推進する。
学生ボランティアを積極的に受け入れ、次代の子育て世代の育成機関として街づくりに寄与する。
- (4) インクルーシブを目指した教育・保育
障がい児保育を実践する中で、こども一人一人の姿を理解し、多様性を認め、合理的配慮のもと、それぞれの生きる力をはぐくんできていく保育を行う。
つばさ学園と連携を深め、併行通園児の支援を高める保育を行う。
大分こども療育センターと連携を深め、こども理解に努める。
- (5) 保育教諭等の資質の向上
各種委員会の委員長を中心として活動。副委員長に主幹保育教諭を据え、適切な運営を補完する。
 - ・ カリキュラム委員会の設置
 - ・ 安全対策委員会の設置
 - ・ 保健衛生委員会
 - ・ 研修委員会の設置

<令和8年度職員体制について>

令和8年度の職員体制を以下のとおり、お知らせいたします。
一年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。



キッドワールド総合園長
園長
教頭
主幹保育教諭
副主幹保育教諭

れもんぐみ(5歳児):1名
かりんぐみ(4歳児):1名
すももぐみ(3歳児):2名
きういぐみ(2歳児):2名
あんずぐみ(1歳児):2名
いちごぐみ(0歳児):2名
一時預かり:1名
栄養士:2名
調理員(パート):2名
保育教諭(パート):6名
子育て支援員(パート):2名
保育補助員(パート):1名

今回は、⑫番目になる「子どものしていることに驚きを持つ」から始めていきたいと思います。

子どもを取り巻く近年の環境の中で、私たちは多忙化という大きな時代の流れの中にあり、日常生活の中で精神的なゆとりを失いがちになっています。そのため、子ども一人一人とゆっくり向き合い、丁寧に関わることが難しくなっています。その結果、本来子どもが持っている素晴らしい素質や可能性に気づかないまま、関心や感動が薄れ、子どもと共に育ち合う喜びを見失ってしまう傾向も見られます。

このような中で大切にしたいのが、「子どもに対する驚き」と「関心」です。

子どものしていることに「すごいね」「そんなこと考えたの？」と驚きをもって関わることは、子どもの成長を大きく促します。

大人が子どもの成長や行動に驚きを示すことで、子どもは生活や活動への意欲を高め、自主性や主体性、やる気を育てていきます。そして、生き生きとした姿を見せるようになります。

また、自分の発見や成長に対して大人が関心を持ち、驚いてくれることで、子どもは「大切にされている」と感じます。そこから「自己肯定感」や「自己有能感」が育ち、「もっとやってみよう」「もっと喜ばせたい」という気持ちが芽生え、次の挑戦へとつながっていきます。そのため、昨日できなかったことが今日できるようになったなど、小さな変化に気づき、その場で驚きを言葉にして伝えることがとても大切です。

子どもは本来、探究や冒険が大好きで、知らないことに対して強い知的好奇心を持っています。大人が驚きをもって関わることで、その好奇心はさらに高まり、「知りたい」「やってみよう」という気持ちが広がっていきます。

また、子どもが何かに夢中になっている時や、不思議な行動をしている時に、「わあ、すごいね」と受け止めることは、子どもの成長にとって非常に大きな意味があります。活動を制限するのではなく、集中できる環境を整えることで、子どもの力はより引き出されていきます。大人が本気で驚くことで、子どもは「自分の行動には価値がある」と感じ、自信を持つようになります。そして、「次はどうなるかな」と探究心がさらに高まっていきます。

さらに、このような関わりは親子の信頼関係を深めることにもつながります。同じものを見て一緒に驚き、感動する経験は、「自分は受け入れられている」という安心感を育て、心の土台をつくっていきます。

ここで、「驚き」が子どもの成長にとって大切な理由を整理してみます。まず一つ目は、「自己肯定感」と「有能感」を育てることです。大人の驚きは、子どもにとって自分の力を映し出す鏡のような役割を果たします。二つ目は、同じものに目を向けて共に感じる「共同注意」を育て、信頼関係や愛着形成の基盤になることです。三つ目は、子どもの独特な感性や発達段階に気づくきっかけになることです。そして最後に、大人自身の心にも良い影響を与え、子どもとの関わりをより豊かなものにしてくれます。

このように、子どもへの「驚き」を大切にするためには、

- ・ 日々の小さな変化に目を向けること
- ・ 他の子どもと比べず、その子自身の成長を認めること
- ・ 子どもの疑問に寄り添い、一緒に考えること
- ・ 大人自身も好奇心を持ち、学びを楽しむこと

が大切です。

忙しい毎日の中でも、子どもとの新鮮な出会いを大切にしながら関わっていききたいものです。

なお、今回も紙面の都合によりすべてを紹介することができませんでした。

次回は、

- ⑬ あるがままの姿を受け入れる
- ⑭ 明るくほほえみの多い保護者になる
- ⑮ ユーモアに富んだ保護者になる
- ⑯ 子どもの名前をたくさん呼んであげる
- ⑰ 人として美しい親になる

といった内容についてご紹介していきます。

